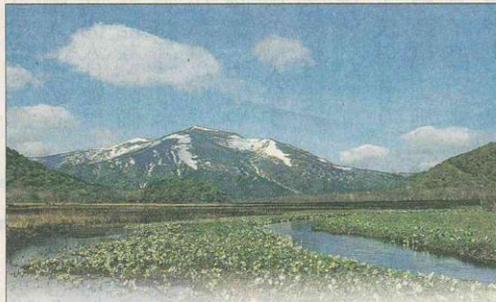


国立公園 訪日客力モン

環境省は国立公園に外国人客を呼び込むため、新たな利用促進に乗り出す。自然を生かした国際的なスポーツイベントを開いたり、温泉などを観察しやすくしたりして魅力を世界に発信する。環境保護と両立しながら訪日観光客を呼び込む。政府は成長戦略の一つとして観光振興に力を入れている。2020年までに外国人利用客を現在の2倍強の年間1000万人に拡大するのが目標だ。

今夏までに「国立公園満喫プロジェクト」を始める。5カ所程度の国立公園を選ぶ方針だ。21日に丸川珠代環境相と観光庁の田村明比古長官が候補地の一つである阿寒国立公園（北海道）を視察し、地元の要望などを聞く。環境省内に利用促進

環境省、20年に倍増1000万人へ 湿原観察やイベント



尾瀬国立公園（環境省提供）

国立公園の外国人利用客は増加傾向



のための有識者検討会を設け、4月から具体的な議論を始める。満喫プロジェクトでは雄大な自然を生かした自転車競技やパラセーリングなどのイベントを開いたり、音楽祭や映画祭などを誘致したりする計画だ。自然体験や伝統文化に触れる公園内ツアーを旅行業者と企画する。また、貴重な自然に触れる機会を増やすため、

従来観察できなかった原生林や湿原などに入れるようにする。通訳ガイド付きで人数は限定する。公園の案内役を増やし、温泉の効能などを説明する外国語のパンフレットも作る。海外でも情報を発信する。観光庁との連携も強める。

全国に55カ所ある国直轄のビジターセンターに公衆無線LAN「Wi-Fi（ワイファイ）」を導入し、通信環境も整備する。国立公園内にホテルなども誘致する考えだ。国立公園では自然公園法に基づき商業施設などを建てるのが可能だ。たとえば、富士箱根伊豆国立公園（神奈川県など）にはホテルも建設されている。現在は環境省が利用計画を作り、事業者に対して認可している。ただ、ホテルに付随する会

議室やホール、飲食店などの商業施設については明確な基準がなかった。今回、事業者の参入を促す仕組みを整える。国立公園は全国に32カ所ある。環境省によると、外国人客は年々増える傾向にあり、15年は430万人に上った。温泉利用などを目的に訪れるケースが多い。

環境省はこれまで自然保護を重視して国立公園を運営してきた。ただ、魅力を十分に生かし切れず、観光庁のデータをもとにした環境省の試算では、外国人利用客が年1000万人に増えれば、年間約1兆円の経済効果が期待できるといっている。